横尾忠則　迷画感応術

TADANORI YOKOO: Art of Inspiration

2016年3月19日（土）～ 8月28日（日）
彫刻の森美術館　本館ギャラリー

《芸術の浄化》　1990年
キャンヴァスに油彩
徳島県立近代美術館蔵

彫刻の森美術館
THE HAKONE OPEN-AIR MUSEUM

横尾忠則の様々な芸術家を主題とする作品を集めた展覧会です。独学で絵画を習得した横尾芸術の本質は、5歳の時に模写した「講談社の絵本」の宮本武蔵の絵に始まり、多様なイメージを取り込む現在に至るまで、“引用”にあると言えます。特にパブロ・ピカソには、1980年にニューヨーク近代美術館で大回顧展を見たことがきっかけとなり、絵画を制作することを決意したというほどの影響を受けました。美術館の入口をくぐる際にはグラフィックデザイナーであった横尾は、2時間後の出口に立った時には“画家”になっていたと言われています。作品を通して、ピカソという一人の人間の生き方に深く感動したのです。

本展では、芸術家たちへの敬愛とエスプリに満ちた作品を公開し、時空を超えて広がるヨコオのアート・コスモスを紹介します。作品の主題となっている作家は、ピカソやデュシャン、デ・キリコ、ピカビアなど。世紀の芸術家や名画を前に心を開き、迷い戯れ、時には批評する様子から、横尾の絵を描く歓びや信念が伝わってくるでしょう。巨匠たちとの交感を通して横尾芸術の核心に迫ることを目指し、さらに美術史を知ることの楽しみを提供します。

また、市販の車をアートカーとして制作し、展示する予定です。JR加古川線のラッピング電車に続く、“走るアート”が登場します。

■ 展覧会情報

【展覧会名】　横尾忠則　迷画感応術
【会　　期】　2016年3月19日（土）～8月28日（日）
【会　　場】　彫刻の森美術館　本館ギャラリー（〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121）
【開館時間】　9：00～17：00（入館は閉館の30分前まで）
【休 館 日】　なし（年中無休）
【入 館 料】　大人1,600円／大・高校生1,200円／中・小学生800円
【交通手段】　箱根登山鉄道「彫刻の森」駅下車、徒歩2分
【主　　催】　彫刻の森美術館（公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団）
【後　　援】　箱根町 ／ 箱根町教育委員会 ／ フジサンケイグループ
【特別協賛】　メルセデス・ベンツ日本株式会社
【協　　賛】　オーエスジー株式会社
【出品点数】　絵画42点（陶板1点、テクナメーション1点含む）、彫刻2点、アートカー1点

■ 開催イベント

現在調整中。決定後、当館ホームページ等でお知らせいたします。

※2016年3月末頃、プレスリリースVol.2を配信する予定です。
新作や展覧会の詳細についてはVol.2でお伝えいたします。引き続きよろしくお願いいたします。

■ 主な出品作品

【主題となっている作家 1】

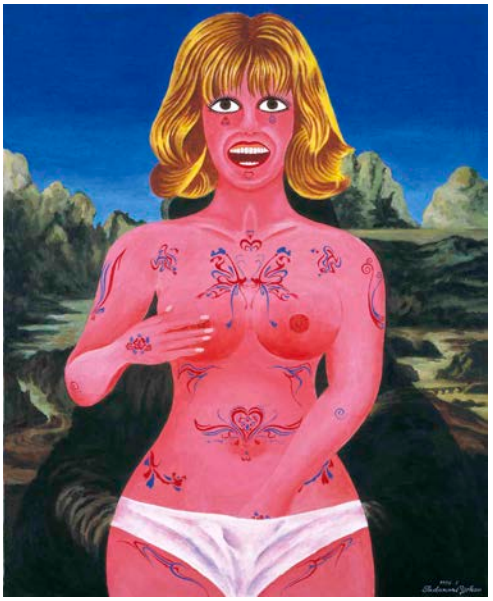
パブロ・ピカソ

《交感神経と副交感神経の結婚》　1991年
キャンヴァスにアクリル
星野眞朋氏蔵

《芸術の浄化》　1990年
キャンヴァスに油彩
徳島県立近代美術館蔵

【主題となっている作家 2】

レオナルド・ダ・ヴィンチ



《モナリザとタトゥー》　2003年
キャンヴァスにアクリル
個人蔵（横尾忠則現代美術館寄託）

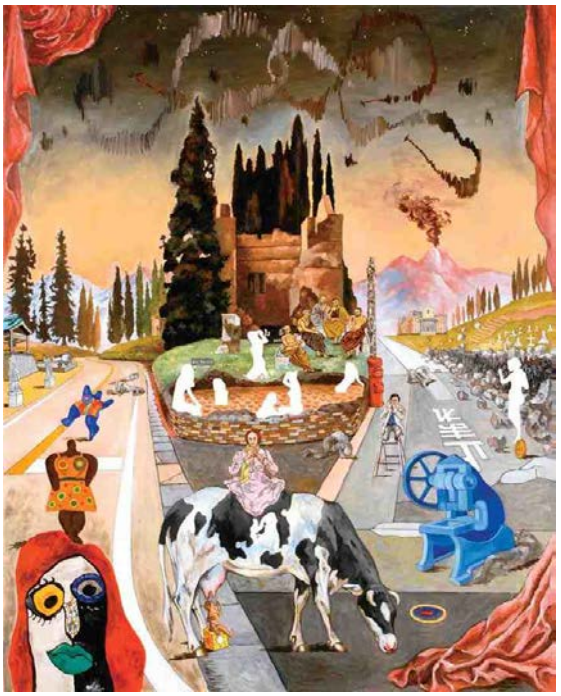
【主題となっている作家 3】

フラ・アンジェリコ

《受胎された霊感》　1991年
キャンヴァスにアクリル、布、紙、木枠
兵庫県立美術館蔵

【主題となっている作家 4】

ニキ・ド・サン・ファール



《文明と文化の衝突》 2007年
キャンヴァスに油彩
個人蔵

【主題となっている作家 5】

ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル

《谷間の泉》 1986年
セラミックに釉薬
大塚オーミ陶業株式会社＋作家蔵

【主題となっている作家 6】

マルセル・デュシャン

《デュシャンピアン》 2010-2013年
キャンヴァスに油彩
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）

【出品作品の中で主題となっている作家】

パブロ・ピカソ
マルセル・デュシャン
ジョルジョ・デ・キリコ
フランシス・ピカビア
レオナルド・ダ・ヴィンチ
フラ・アンジェリコ
ペーテル・パウル・ルーベンス
ニキ・ド・サン・ファール
ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル
ディエゴ・ベラスケス
ジャン=フランソワ・ミレー
アーノルド・ベックリン
アンリ・ルソー
ポール・デルヴォー
ルネ・マグリット
フェデリコ・フェリーニ
その他

■ アートカー（smart forfour）

メルセデス生まれのシティ・コンパクト“スマート”が横尾のパレットで
デザインされたアートカーとなって登場します。
（左：アートカーのイメージ　右：使用された絵画パレットの画像）

《CAR-leidoscope》 2016年

横尾忠則　Tadanori Yokoo

【略歴】

撮影：松元絵里子

1936年、兵庫県西脇市に生まれる。1960年代からグラフィックデザイナーとして、日本の前衛シーンやポップ・シーンを代表する存在として活躍。1972年にニューヨーク近代美術館で個展を開催。1981年に画家宣言を行い、画家に転向し、日本の大衆社会の中で絵画を独自の形で展開してきた。近年の主な個展に、カルティエ財団現代美術館（2006）、世田谷美術館／兵庫県立美術館（2008）、金沢21世紀美術館（2009）、青森県立美術館（2013）、霧島アートの森（2014）がある。2012年に横尾忠則現代美術館、2013年には豊島横尾館が開館し、横尾芸術の全貌を見直す機会を提供している。2015年、第27回高松宮殿下記念世界文化賞絵画部門を受賞。作風やモティーフを変えつつ「死と生」の視点から、今も質量ともに圧倒的な作品を作り続けている。